

写真部創立の前後

昭和9年卒 橋本 茂

1932年（昭7）4月15日

写真熱が一般社会に上昇するに従い、学校内でもカメラの愛好者が増加して来たので、写真理論および技術の研究、対外進出、部員相互間の親睦を目的として、学友会内に写真部設立の認可を得ることを前提に有志によって写真研究会をつくることとした。そしてこの事は、取りあえずの代表格の橋本、笹川が川口校長に報告、内容の説明を行なったが容易に写研発足は許可されなかった。

同年7月

その後、引き続いて数回の交渉を経てようやく校長より趣意書提出の指示を受け、直ちに提出した。

同年7月～8月

オリエンタル写真学校夏季講習会に橋本出向、必須全課程を履習した。

同年9月

校長より写研としての行動開始の許可を得て同時に学校より少額の補助金を支給されることとなった。次いで校内展および準備のための暗室が必要となり、許可を得て階段下に暗室を設置し、DPEすべてを学生自身で行うようになったのである。

同年11月

大倉高商学生記念祭に写研も協賛、第一回展覧会を開催、好評を博した。

同年12月

ここで、初期の目的である学友会写真部の認可を得るために、学友会評議員会および常務委員会に、過去の実績と共に設立趣意書を提出、審議の進行に応じて2、3回会議に出席し設立趣旨の説明をして了解に努めた。

ちなみに評議員会は、学友会の最高の意思決定機関であり、部の新設、廃止および各部への予算の配分を決定する権限を持っており、常務委員会は日常的な執行機関であり、庶務、会計、記録を分担していた。

1933年（昭8）2月

学友会では上趣意書を検討の結果、写真が個人趣味的なものとなり易いので、極力その面を排除し、より大衆的に活動することを条件として、4月1日を期して設立を認可する方針のもとに直ちに予算会議に提出、次年度の予算を協議することとなり、従ってここで写真研究会は発展的解消となった。

同年4月

写真部の設立認可。そして本年度の予算額が決定したので各学年および新入学生に対し部員募集を行い。約40名の部員を獲得して新発足した。役員としては、初代委員長；橋本茂、会計；笹川博賢、委員；飯沼達男（当時石塚姓）、他委員7名でありアルバム委員をも

兼任した。

但し、当時部室はなく、打合せ等をする場合は必要に応じて暗室が部室の代用をつとめたことがしばしばであった。

同年11月

記念祭で第2回写真展覧会を開催、4ツ切写真約50の作品を展示した。

同年12月

写真部第2年度を4月より迎えるにあたり、新委員に引き継ぎ完了、次年度委員長として佐藤洋一に決定した。